

# 商大生、クイズで英語授業

## 小樽 小学校で2人が就業体験

クイズ形式で授業を進める小樽商科大生



小樽商科大の学生2人が13日、社会貢献活動を行う同大のカリキュラム「サービスマーケティング」の一環で、小樽市立手宮中央小でクイズ形式の英語の授業を行った。

市教委と同大は昨年度から英語教育で連携し、市内の小学校がインターンシップ(就業体験)を受け入れている。

本年度は社会情報学科4年の佐藤匠雅さん(26)と内山颯斗さん(22)の2人。ともに教職課程を履修しており、10月から11月にかけて同小と山の手小で各校3回

ずつの日程で、教師の補助として児童と触れあっていた。

13日は手宮中央小での最後のカリキュラムで、2人は6年生(40人)を相手に15分ほどの授業を実践。「イス」や「鉛筆」などお題を出し、児童は英語で説明し内容を当てるゲームを2人一組で行い、知っている単語をつなぎ合わせて表現するなどしていた。

2人は「小学校の教育現場を見られて良かった。この経験を自分が指導する時に生かしたい」と話していた。

(前野貴大)